

7. 地域安全マップ

1 地域安全マップの効果

■被害防止能力の向上【子ども・大人】

どのような場所で犯罪が起こりやすいのかが理解できるようになる。その結果、より安全な道を選ぶようになり、危険な道を歩かざるを得ないときにも、その自覚があるので、友達と一緒に行動したり、いつもより注意力を高めたりするようになる。

■コミュニケーション能力（問題解決能力）の向上【子ども】

友達同士で話し合いながら地域安全マップを作製することにより、世代内コミュニケーション能力を培うことができる。

また、大人から街の様子を聞くことにより、世代間コミュニケーション能力も培うことができる。

■コミュニティへの関心（愛着心）の向上【子ども・大人】

地域を探検し、様々なことを発見すると、地域への関心が高まる。

また、インタビューを通して住民と触れ合うと、地域には自分たちを守ってくれる人が大勢いることに気づき、地域を愛する心も育つ。

■非行防止【子ども】

地域社会に貢献したという達成感・成功体験が生まれ、犯罪・秩序違反行為に対する嫌悪感も醸成される。その結果、非行防止に有効な市民性が育つ。

■地域ぐるみの安全対策の推進【大人】

地域住民が、子どもたちによる地域安全マップづくりを見かけたり、協力したりすることを通して、子どもを地域で守るという意識が高まる。

(出典：「地域安全マップをつくろう」東京都)

2 参考資料

大学生による小学生への地域安全マップ作製指導とその効果測定

http://www.fuhc.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/img/08_5.pdf

福山大学大学院人間科学部の学生と、福山大学人間文化学部心理学科／平伸二教授の共同執筆による「地域安全マップ」に関する論文です。

大学生による小学生の地域安全マップづくりへの指導を通じて、小学生への効果等について取りまとめられています。

7 地域安全マップ

地域安全マップとは、犯罪が起こりやすい危険な場所や安全な場所を示した地図です。危険な場所とは、だれもが「入りやすく」、だれからも「見えにくい」場所です。また落書きがある、ゴミが散乱しているなど、人の管理が行き届いていない場所も心理的に「入りやすく見えにくい」場所です。このマップづくりは、「どこに不審者が出没した」「どこで事件が発生した」といったような、「人」や「事件」に注目するものではありません。あくまでも「場所」に注目することが大切だとしています。

地域安全マップづくりは、子どもだけではなく、地域への啓発や環境改善にも活用できる有効な取り組みのひとつです。

1

地域安全マップづくりの目的

地域安全マップづくりの目的は、「地域の環境を改めて知る」ことだけではなく、「子どもの持つ危機回避能力を高める」ことにあります。マップ作りを通し、子どもたちには、どのような場所に注意をすればよいか、自身で判断できる力をつけさせることが大切です。このためには、子どもたちがマップ作りに参加する必要があります。

安全マップづくりの効果

●地域への関心が高まる

自分たちの生活している地域を普段とは違った視点で見ることによって、さまざまなことを発見でき、地域への関心が高まります。

●地域住民ボランティアとの交流

地域のボランティアと子どもたちが一緒にマップづくりを行うことで、お互いの顔を知る機会になります。

●地域の意識の向上

子どもたちによる地域安全マップづくりには、子どもの力で大人の意識を変え、そこから改善のアクションを起こさせることが期待できます。例えば、街灯がなく夜間暗い場所や、ゴミや落書きが放置され人の関心がない場所などのマップ情報を共有し、地域や行政の力でその場所を改善することで、安全なまちづくりにつながります。

2

3 参考となるビデオ資料

「地域安全マップ」教材ビデオ／広島県
地域安全マップの作り方について説明されているビデオです。効果や作業の流れについても詳しく解説されています。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/cspt/shiryou/mapm.htm>

「地域安全マップを作ろう」 NPO 法人北海道エクスプローラー

地域安全マップの作製のポイントと手順がまとめられたビデオです。

前半：<http://www.youtube.com/watch?v=6HxIWAJSKLo&feature=related>

後半：http://www.youtube.com/watch?v=2w_sxJuG-74&feature=related

- | | |
|--------------------------|---|
| 規準表 (21b) | 防犯のポイントについて、地域住民や子どもたちに説明することができる。 |
| (23b) | 建物の種類や特性に応じた対策を理解し説明できる。 |
| (41b) | 防犯パトロールを企画・立案し、防犯の実践に取り組むことができる。 |
| (42a) | 子どもが自分自身で身を守るための方法を指導できる。 |
| <input type="checkbox"/> | ② 防犯を目的とした様々なマップの概要や詳細を説明できる。(地域安全マップと犯罪発生マップの違いについてなど) |
| <input type="checkbox"/> | ① 子どもの目線に立って、建物とその周辺の危険な場所が判断できる。 |
| <input type="checkbox"/> | ④ 「安全マップ」などを活用した活動を企画・実行することができる。 |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ 「安全マップ」などについて説明し、その作成方法を指導できる。 |

7

3

地域安全マップ作成の流れ (参考例)

4

手順1. 準備

- 「学校までの地図 (通学路の地図)」「学校の周りの地図 (学区の地図)」「商店街の地図」など、どの地域のマップを作成するかを決める。
- 参加人数が多いときはグループごとに分かれ、それぞれが担当する場所を決める。

【準備しておく】

- 書き込み、写真を貼ることができるよう大きめの地図や構造紙 (市販の地図のコピーを使用する場合は、地図の製作会社の許諾が必要)
- マジック、ペンなどの筆記用具・デジタルカメラ・メモ帳



▲大人も安全マップで地域の確認を

手順2. 地域調査

- 実際に歩いてみる。
- 日常であまり意識してない場所、モノにも注目してみる。
- 気になるところはメモをとる、カメラで撮影するなどして、あとで「なぜ気になったのか」を考えてみる。
- お店の人や警察官、散歩している人など、地域のいろいろな人の話を聞き、その話も参考にする。

手順3. まとめる

- 下書きの地図やメモを見て、そのときの様子を思い出しながら、地図にまとめ完成させる。
- 「集めた情報をどのように表現したらマップを見る人にわかりやすいか、あとで使いやすいか」を考えてマップを作成する。
- 絵や記号、色などを使うとわかりやすくなる。

27

4 班編成の考え方

班を編成し、役割分担を決定する。具体的には、次のようなものが考えられる。

《1班：5～7人編成》

●班長 …… [1名]

班の代表者であるとともに、班員の行動をまとめる役割を担当する。

●副班長 …… [1名]

班長を補佐するとともに、班員の作業を取りまとめる役割を担当する。また、班員が交通事故等に遭わないようにするため、自動車や自転車等が接近してきた場合、班員に対して注意を喚起する作業も担当する。

※なお、子どもの地域安全マップづくりに地域住民等が付き添える場合には、その人に、交通安全の役割を担当してもらう。

●地図係 …… [1～2名]

危険な場所及び安全な場所、ならびに写真撮影した場所及びインタビューした場所を、地図に記載する作業を担当する。

地図係は、「危険な場所等の記載」、「撮影場所の記載」及び「インタビュー場所の記載」という多方面の作業を取りまとめる役割を担うことから、人数に余裕がある場合は、地図係を複数にして、作業を分担してもよい。

●写真係 …… [1名]

危険な場所や安全な場所を撮影する作業を担当する。写真撮影に夢中となり、後でどこを撮影したのか分からなくならないようにするために、撮影した場所を地図係に連絡しておくことも忘れてはならない。その日のうちに、地域安全マップへの記載等を行う場合は、昼休憩などを利用して、現像・プリントアウトしておく。

【注意】写真撮影に際しては、人の顔、表札、家の中等プライバシーを侵害するおそれがあるものを写さないようにあらかじめ注意しておく。

●インタビュー係 …… [1～2名]

地域住民に対して、被害に遭うかもしれないという不安を覚える場所と理由を尋ね、その回答内容を記録する作業を担当する。

ただし、子どもに対する被害体験のインタビューは厳に行わない (子どものトラウマを深める危険性がある)。なお、人数に余裕がある場合は、インタビュー係を複数にして、作業を分担してもよい。

(出典：「地域安全マップをつくろう」東京都)

5 フィールドワークにおけるチェック例

ハード面の要素

「領域性」＝ 区画性

「監視性」＝ 無死角性

- ガードレールがある。
- 自動販売機が何台も設置され、後方が死角になっている。
- 公園が道路より高い所にあり通行人から見えない。
- 公衆トイレの電気が切れている。
- 高い生け垣やブロック塀が続いている。
- 人通りが少ない。
- 車の往来が多い。
- 街灯が少ない。
- 廃屋がある。
- 暗い地下駐車場がある。
- 公園にどこからでも入れる。

ソフト的な要素

「領域性」＝ 縄張り意識

「監視性」＝ 当事者意識

- ゴミが山積している。
- 通学時に、近所の人が通学路を見守ってくれている。
- 「子ども 110 番の家」が多数存在している。
- 住民によるあいさつが活発である。
- 商店の配送車に「防犯パトロール中」のプレートが貼付されている。
- 住民が協力して、夜間、門柱灯、玄関灯を点灯するようにしている。
- 壁にスプレーで落書きがなされている。
- 路上駐車が多い。
- 放置自転車が多い。

(出典：「地域安全マップをつくろう」東京都)

6 地域安全マップコンテスト開催事例

平成 20 年度 第 2 回 沖縄県子ども地域安全マップコンテスト (沖縄県)

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/contview.jsp?cateid=60&id=18170&page=1>

県内の小学校、児童館及び子ども会から寄せられた 103 点の作品から、事前審査により優秀作品 9 点、入選作品 11 点を選出し、公開審査により各賞を決定しました。

公開審査に当たっては、各グループ 2 名の生徒が舞台に上がり、プロジェクターを使用し、作成したマップのプレゼンテーションを行うとともに、審査員の質問に答える要領で実施しました。

NPO 法人エクスプローラー北海道 ほっかいどう地域安全マップコンテスト (北海道苫小牧)

<http://blog.canpan.info/explorer/archive/479>

北海道内より安全マップを募集し、苫小牧市内のショッピングモールにて展示を行った。

5

マップに載せる情報の例

【事件や事故の起きそうなところ・「ヒヤリ」「ハット」としたところ】
 ・過去に事件や事故が起きた場所と似ているところ。
 ・入りやすい場所、見えにくい場所。
 ・高く長い塀が続く道・路上駐車の多い道など。

【時期・時間帯で変化すると場所】
 ・昼間は明るい、夜になると街灯が少なくて暗い道。
 ・雑草や木が生い茂って見通しの悪い公園。
 ・若者がたむろする場所 など。

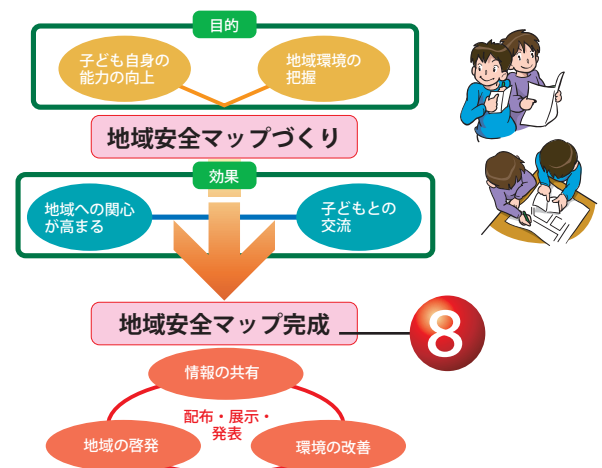
【管理が行き届いていないところ】
 ・落書きやゴミが散乱しているところ
 ・整理されていない駐輪場
 ・ボロボロになった空き家 など。

【助けを求められることができる場所】
 ・警察署、交番
 ・子ども 110 番の家
 ・学校・塾
 ・信用できるお店 (コンビニエンスストア、銀行、ガソリンスタンド、病院) など。

【よく行くところ・目印になるもの】
 ・よく行く場所 (学校、公園、図書館、児童館、お店など)
 ・目印になる場所 (川や池、記念碑、大型店、観光名所など)

ポイント：大人「目線」と子どもの「目線」

大人と子どもでは、目線、歩幅、体格など、さまざまな違いがあり、大人が危ないと思う場所と子どもが危ないと思う場所が同じであるとは限りません。大人と子ども両方の目線が入ったマップづくりを進めましょう。



7 作成上の留意点

地域安全マップは、犯罪が起こりやすい場所を表示した地図であって、実際に犯罪が発生した場所を表示した地図（犯罪発生マップ）ではなく、また、不審者が出没した場所を表示した地図（不審者マップ）でもないということを認識する必要がある。

また、大人が地域安全マップを作製して、それを子どもに渡すだけでは、子どもの被害防止能力はそれほど高まらないということも認識する必要がある。子どもや地域住民は、地域安全マップづくりを経験することで、危険な場所を避けたり、注意力を向上させたりする必要性を強く感じるようになる。子どもや住民自身が試行錯誤しながら相互に協力して作り上げる過程こそが、様々な効果を生む。

●失敗例〔1〕不審者マップ

不審者マップは、被害防止能力の向上に効果的でないばかりか、有害でさえある。不審者か否かの判断が主観的であるため、特定の人や集団を不審者扱いした差別的な地図になる危険性がある。

子どもに、単純に「不審者に注意しましょう」と

指導することは、「進んであいさつをしましょう」とか「困っている人を助けましょう」などと指導していることと矛盾し、子どもを混乱させてしまう。子どもに、「犯罪が起こりやすい場所では十分警戒し、犯罪が起こりにくい場所においては積極的にあいさつをしましょう」と指導すれば混乱は回避できる。

●失敗例〔2〕犯罪発生マップ

犯罪発生場所を、単純にそのまま地図に書き込むだけでは、危険な場所を見極める能力は育たない。さらに、犯罪発生場所に執着すると、被害体験を聞き出すことに躍起となり、被害者のトラウマ（心の傷）を深める危険性もある。

特に、被害に遭った子どもの心のケアには十分な配慮が必要である。犯罪が起きた場所が明らかにされている場合でも、それは、あくまでも、犯罪が起こりやすい場所を洗い出すための基礎資料と考えるべきである。

●失敗例〔2〕日ごろ不安に感じている場所を表示した地図

日ごろ不安に感じている場所では、注意しているはずなので、その場所を単純に地図に落とすだけでは、被害防止のための意識と能力の向上は期待できない。犯罪が起こりやすい場所の、判断基準【「入りやすい」（領域性が低い）場所と「見えにくい」（監視性が低い）場所という基準】に照らして、場所の危険性を判断し、地域に潜む危険性を発見するという「気づき」の過程こそが、被害防止にとって最も重要である。

（出典：「地域安全マップをつくろう」東京都）

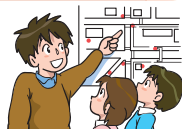
6

作成したマップを活用しよう

展示会、コンテストなどを開催して、作成したマップを展示したり、マップを清書し、対象となる児童生徒・保護者へ配布するなど、情報の共有を行きましょう。また、マップを参考にし、子どもたちが示してくれた危険な場所について地域の方・行政へ呼びかけ、地域環境の改善に取り組むとよいでしょう。

ビデオ教材（ビデオ→地域安全マップ）

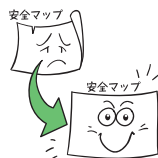
※ビデオを見て、安全マップの効果と作成の流れについてまとめてみましょう。



7

定期的なマップづくり

定期的な地域安全マップづくりを行うことは、「現在の地域環境の情報を共有」し、「子どもの危機回避能力」を高めるという目的において重要です。毎年一定の年齢を対象にマップづくりを行うことで、地域に住むすべての子どもたちの能力を育成することができます。



▲毎年のマップ作り

Column

ニュースを見よう！

日ごろから事故や事件のニュースを見て、自分に置き換えて想像したり、どういう場所にどんな危険があるかを予測しておくことはとても大切です。天気予報で「夕方雨が降るでしょう」と聞いたらお天気でも傘を持っていくように、事故や事件も予知できれば、防ぐことができます。事故や事件の予知能力を高めることが、犯罪を予防したり、何かあったとき落ち着いて行動する力を養ってくれます。したがって、必要以上に怖がる必要もないし、危ないからずっと家の中にいたほうがよいなんてこともありません。雨の日だって傘や長靴があれば楽しく外出できるように、危険についてもちゃんと心構えや準備をしておけば大丈夫です。

8 地域安全マップ作成事例

下記で、広島県での地域安全マップ作成の事例を見ることができます。

地域安全マップ作製の事例〔1〕

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/cspt/topics/anmap/anmap07.htm>

地域安全マップ作製の事例〔2〕

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/cspt/topics/anmap/anmap08.htm>

地域安全マップ作りを支援するボランティア団体 PACE

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/anzen/kodomo/pace-2.html>

福山大学、広島経済大学、安田女子大学、呉大学、県立広島大学、広島大学の学生で構成され、広島県内を中心に地域安全マップの作成指導を行っています。